

2026.1.5 No.6

## HIOKI財団 通信

HIOKI奨学・緑化基金 事務局

## 成長と貢献の両輪を廻す

公益財団法人 HIOKI 奨学・緑化基金

理事 荒川玲子



毎年更新される夏の暑さと、日々目の当たりにする科学技術の発達に驚かされ、どちらの変化にも少しづつ耐え難くなってきたことに落胆する秋の始まりです。そうこうしているうちに雪の便りもやってくることでしょう。

さて、この財団の理事のお話を頂いた時に、私のような未熟な人間が理事として役割を果たすことが出来るのか、というのが正直な感想でした。それと同時に、2005 年から約 20 年間もの間、地域社会の発展を地域の人と共に、又、環境の未来を見据えた活動を継続されている財団の主旨と歴史を知り感銘を受け、敬意を抱いております。自然と人材の両方を「未来を育む存在」として位置づける視点はこの基金の独自性ではないでしょうか。

この財団の設立趣旨には「地域の優秀な人材を育成し学術の振興をはかること、緑豊かな環境を市民とともに創造していくこと」という2つの柱があります。

植物は何かを奪ったり、著しく壊したりすることなく、ただそこにある。そして自然と上へ上へと成長し、鳥や虫たちを住まわせ、光合成することによって生態系を支えています。

人はその環境、努力と思いがあればその可能性は無限大であるという事を日頃関わる人の姿から学んでいます。特に若者の持つ力は更に無限に広がり、人工知能（AI）が発達している現代社会においても、人と人とが繋がりを持ちながら、課題、問題解決しようとするそのエネルギー、情熱は底知れぬものがあります。未来の人へ投資をし続ける財団の在り方を再認識し、この組織の理事として活動を共にできる事、この地域の住民として、また財団の一員であることに誇りを感じ、その重みを一層強く実感しています。

この5月、初めて奨学金受給を希望する大学1年生の面接官を担当させて頂く機会に恵まれました。その中で、若者たちが幼い頃から良き習慣を持ち、新しい環境の中で学んでいる様子を直に知る事が出来ました。その中で多くの学生達が「貢献」という言葉を口にしていて事に希望を感じました。貢献したいと思う気持ちが「成長」としたいという意欲を生み、またそのこと自体が未来への「貢献」に繋がっていく。この成長と貢献の両輪を廻す事がまさに HIOKI 奨学緑化基金の活動、在り方そのものであると感じました。学びの習慣が根を張り、この基金が幹を太く強くし、この若き力のやがて大きく育ち、それぞれが循環し、リンクしてまた世の中に新たな貢献の豊かな森を生む事を期待しています。ここに「期待」と記しましたが、「期待」ではなく「応援」という言葉がこの財団には適しているように感じますね。微力ながらこれからの自然と知の豊かな実りと発展を見届け応援していきたいと思います。

## 荒川理事 Profile

1994 年 学校法人信学会 体育教諭として勤務(上田幼稚園)

2001 年 丸子地域振興公社 (現上田地域振興事業団) 勤務

2011 年 総合型地域スポーツクラブうえだミックススポーツクラブマネージャー

2016 年 特定非営利活動法人うえだミックススポーツクラブ理事長

## ○奨学生の皆さんの近況報告からご紹介します。

金沢大学 1 年 理工学域 R.K さん

進路選択に妥協せず、自分の本当に進みたい道を選んだことで、ありのままの自分であることができる大切な仲間と出会うことができ、充実した学生生活を送っています。

また現在、大学では共通教育科目を通じて文理を問わず幅広い学びを得ています。特に文学や社会学の講義では、これまで触れる機会の少なかった分野に出会い、新鮮で興味深く感じています。こうした学びを通して社会や人間の在り方を多角的に考える視点が養われ、自分の視野が大きく広がりました。

また、物理学や地学、科学技術と科学方法論といった科目は、理工学部でこれから深めていきたい専門分野とつながりがあり、学びの基盤を固める上でとても有意義です。大学では高校のときと比べて自分で課題を見つけ、主体的に考えることが求められるため、一つ一つの学びがより実践的であり、成長を実感できています。

今後も幅広い知識を吸収しつつ、自分の専門性を高められるよう努力していきたいと考えています。

筑波大学 2 年 理工学群 H.O さん

大学が実施している「1～3年生でも研究室に所属して研究活動を行えるプログラム」に応募し採択されました。

現在は自分で設計した分子の合成を図っているところです。クラウンエーテルをつないで巨大な環状分子をつくる研究で、つなぐ部分にエチレンジアミンを用いて、クラウンエーテルの部分でアルカリ金属、シッフ塩基部分で4配位の金属の2種類を補足できる分子を設計しました。今後も目標分子を合成できるよう励む所存です。

さて、今年の夏休みには、エキストラとしてつくばジュニアオーケストラの定期演奏会に出演し、ピッコロを吹きました。「スターウォーズ」組曲、ベートーヴェンの交響曲第5番など4曲を演奏しました。私としては初めての交響曲で、非常に良い経験ができました。私の所属する筑波大学管弦楽団が来年秋に予定している第100回定期演奏会を見据え、より一層精進していこうと思います。

京都大学 2 年 工学部 S.T さん

2 回生前期では、いくつかの専門科目を受け、本格的な地球工学を学び始めました。下水や橋梁といった自分が想像していた科目のものから、鉱山資源や発電施設といった意外なものまで、多岐にわたる内容の導入がされました。

例えば鉱山資源などを取り扱う資源工学入門という授業では、膨大な数の鉱床とその生成条件などを覚えなくてはならず、初めはとても苦労しました。しかし、学習を進めていく中で、徐々に資源工学にも興味を抱きはじめ、覚えるのがどこか楽しくなっていました。入学当初は土木工学にしか関心がなかったのですが、今では資源工学、環境工学のどちらにも同じくらい興味を持ち始めてしまいました。半年後にはコース配属があるので、今期では授業外でも先の研究内容に触れ、納得のいく決断ができるようにしたいです。

体育会のラクロス部にも所属を続けており、毎日暗くなるまでボールを追いかけています。上手いかないこともたくさんありますが、それ以上に得られる事ばかりです。他にも、祇園のカフェでアルバイトをし、外国人観光客の接客をしたり、高校時代日本史の授業で学んだ寺社仏閣を巡ったりと、京都ならではの経験もしており、私生活も充実した日々を送っております。社会に貢献できるような人材となれるよう、これからも努力を重ねたいと思っております。

東北大学 3年 工学部 N.Mさん

3年前期は1、2年次に学習した基礎的な内容を踏まえ、機械工学の中でもより専門的な学問に取り組むと共に、自らの関心に基づいて研究室を選択しました。

具体的には、今まで学んできた数学や物理学の知識を基に、現代制御論や連続体力学、回転・往復機械の力学といった機械工学はもちろん、熱・物質の輸送現象や電気および電子回路、実験、さらにはスーパーコンピュータを活用したプログラミングなど、幅広い分野の学問に意欲的に取り組みました。また、研究室配属では、第一希望の分野に進むことができ、分子スケールの熱や物質の流動現象を扱うことになりました。

そして、夏季休業期間には御社の HIOKI 祭りに参加させていただき、社風や技術などに加え、地域との深いつながりやグローバルに事業を展開されている様子を目にし、自分の将来について考える貴重な体験ができました。3年後期は引き続き専攻との関連について考えながら講義や実習を受け、見識を広めた上で、自らの進路についても熟慮したいと思います。

東京都立大学 4年 システムデザイン学部

M.Tさん

現在は学部時代に学んだ4力学の知識を基盤として、(ロケットエンジンの)化学推進に関する研究に取り組んでいます。特に亜酸化窒素とジメチルエーテルを用いた推進系を対象とし、燃焼実験や数値解析を通じて推進機の性能向上を目指しています。

近年は噴射器内部の流動現象や混合特性に注目し、旋回流やスタティックミキサーなどの要素を導入した試験を行っています。装置設計から加工、実験の実施、データの解析に至るまで一貫して携わることで、理論と実践を結び付けた理解を深めることができました。また、高温環境に耐える材料の選定や加工法の検討など、工学的な課題解決にも取り組んでいます。

今後はこれまでの成果を基に、燃焼特性の定量的評価を進めるとともに、より効率的で安全な推進システムの実現を目指して研究を発展させていきたいと考えています。

○ HIOKI 財団は、今年度も県内の団体に 3200 本あまりの苗木を寄贈しました。



UE 森 2025~上田地域のにぎやかな森づくり植樹の集い~

大阪大学 4年 基礎工学部 Z.Kさん

今年度から研究室に配属され、卒業研究に取り組んでいます。テーマは、大気中の水蒸気もつエネルギーを電気に変換する発電デバイスの研究です。研究を進める中で、これまでの授業では得ることができなかった課題解決に向けて調べ考える力を養うことができていると感じています。特に、測定系の立ち

上げに携わった際には、論文や専門書を読み測定原理の理解を深めることに加えて、装置を制御するためのプログラムや測定結果の解析方法など、多くの学びを得ることができました。

8月には大学院入学試験がありました。その準備として、これまで学んだ専門科目を復習する中で、電磁気学や固体物理学といった別々の分野として捉えていた科目同士のつながりが見え、研究の基礎となる数学や物理学への理解が深まりました。試験では、受験した電子光科学領域において1位の成績で合格することができました。これまでの学習の成果を実感でき、うれしく思っています。